

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	エコツーリズムによる地域資源の資産化事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	産業経済部	課等名	観光課		包含する細々目	1	7	1	4	13	2	1,279
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり											
施策	62 地域資源の資産化											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	地域経済活性化プログラム2005						
		事業期間	16	年度～	27	年度	関連計画条例等					

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	地域外の人	エコツアーに参加する人(数)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了した年度とする
	地域内の人	エコツアーの受入れを行う地域(数)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	地域の自然や歴史・文化を再認識する。それらの資源をエコツアーに仕上げ、資産化する。地域住民自らが主体となって受入れを進めることにより、地域の活性化と、経済的に持続可能な地域をめざす。	エコツアーに参加する人(数)	18目標	100	最終目標	
			18実績	100	19目標	200
		エコツアー実施数	18目標	5	最終目標	
			18実績	5	19目標	10
		23目標	500	23実績		最終目標達成年度
		23目標	20	23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	環境省からエコツーリズム推進モデル地区(13地区)に指定され、「里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取り組み」のモデルとして、平成16年度から18年度まで、事業を実施してきた。学習や取組を進める中で、観光を通じて地域の資源を資産化する可能性への認識が広がり、取組を始める地域や個人が増加してきた。(以下参考:環境省HPから)エコツーリズム = 自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかた。エコツーリズムの効果 [1]環境保全:地域の自然環境・文化資源に対しては、それらの価値が維持されるよう保全され、または向上する [2]観光振興:観光業に対しては、新たなニーズに的確に対応し、新たな観光需要を起こすことができる [3]地域振興:地域社会に対しては、雇用の確保、経済波及効果、住民が地域に誇りを持つこと等により、地域振興につながる	・エコウォークの実施による情報の発信とエコツアーの実施テスト ・各地域の取組の支援、マスコミやインターネットを通じた情報発信 ・モニターツアーの実施による可能性調査 ・南アルプスシンポジウムの実施により、課題や可能性の検討 ・3月に南信州エコツーリズム推進協議会・シンポジウムを開催し、3年間のまとめを行った。 ・地域認証制度の検討 ・普及啓発のビデオ、地域素材を紹介するマップの作成支援など ・各地域が連携して推進する愉快的仲間たちの立ち上げ	・エコツアー実施数 ・検討会議の回数 ・作成された資料	5 15
		・エコツーリズムの実施について意欲を持つ地域やグループの支援 ・南信州観光公社が主催するトレッキングなどのガイド付きのツアーの拡大 ・JTBへのメニュー提案 ・見るだけの観光地から、体験型、地域の歴史や文化、人との交流を含む観光が今後重要になる。 その結果、地域も活性化することも狙いとしている。ひとつづつ作り上げていく。	・エコツアー実施数 ・検討会議の回数 ・作成された資料	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定国庫支出金		
	特定県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	1,114	1,279
事業費計(A)		1,114	1,279
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,500	19年度 1,500
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	5,364	5,364
	トータルコストA+B	6,478	6,643

特定財源内訳や補足事項
平成18年度は環境省から地域のNPO法人へ請負事業として約600万円の支援があった。(市の会計外)
来年度以降はソフト事業に使用できる費用がH18の15%程度に縮小されてしまうので、事業の推進は縮小される

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	・価値が顕在化される ・認知される	活用できる状態の整った地域資産の数	現状値	436	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	520
	地域資産を知っている市民の割合	地域資産を知っている市民の割合	現状値	41.8	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	50	

<p>この事業を開始したきっかけ</p> <p>地域の自然や農業などを活用した体験型の旅行を「体験教育旅行」として商品化し、南信州観光公社を受入れの仕組みとして設立したことにより、全国的にも先進地となっている。環境省の行うエコツーリズム推進モデル事業を飯田市が受けたことにより、エコツーリズム事業の更なる推進がはじまった。</p>	<p>事業を取り巻く状況の変化</p> <p>平成18年度は環境省から地域のNPO法人へ請負事業として約600万円の支援があった。(市の会計外)</p> <p>来年度以降はソフト事業に使用できる費用がH18の15%程度に縮小されてしまうので、事業の推進は縮小される。</p> <p>国ではエコツーリズム推進法が審議されている。成立した場合は、市として新たな組織や計画の検討が必要となる。</p>	<p>事業に対する市民や議会の意見</p> <p>モデル事業の実施により、エコツーリズムを行うことにより、過疎・高齢化がすすむ山間地にとって、地域住民が地域の資源に気づく・愛着がうまれる外から人が訪れることにより、住民に元気が生まれる。経済効果の発生により、農業も含めた地域の持続可能な暮らしに資することが理解されてきた。</p> <p>人と人のつながりをいかす観光、原生林などの資源を生かせる観光の推進が提言されている。</p>
--	--	--

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	<p>この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？</p>	<p>(評価) 結びつく (その理由)</p> <p>研究や知識だけでなく、訪れる方の具体的な発生により、資源の再認識、誇りや愛着、経済面での“資産化”が可能となる</p>	有効性評価	<p>成果をさらに向上させる余地はありますか？</p>	<p>(評価) 余地がある (その理由)</p> <p>各地域の活動を人的・物的に支援する市の体制の強化</p>
	<p>対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？</p>	<p>(評価) 必要性がない (その理由)</p>		<p>廃止・休止した場合の影響はありますか？</p>	<p>(評価) 影響あり (その理由)</p> <p>これまで関わってきた多くの市民が失望する。エコツーリズム先進地としての評価が低下する。新たな時代の流れに遅れる。</p>
	<p>意図の見直しの必要性はありますか？</p>	<p>(評価) 必要性がない (その理由)</p>		<p>他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)</p>	<p>(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)</p>
	<p>市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)</p>	<p>(評価) 必要ある (その理由)</p> <p>一定の訪問客数が確保でき、自立出来るまでは支援が必要である。</p>		<p>効率性評価</p> <p>成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？</p>	<p>(評価) 不可能 (その理由)</p>
			公平性評価	<p>受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？</p>	<p>(評価) 妥当である (受益者とその理由)</p> <p>取組を行う地域や市民</p>

【Plan】改革改善

<p>今後の事業の方向性</p> <p><input type="checkbox"/> 終了</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止</p> <p><input type="checkbox"/> 休止</p> <p><input type="checkbox"/> 目的見直し</p> <p><input type="checkbox"/> 別事業に統合</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善</p> <p><input type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>実施年度 具体化</p>	<p>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</p> <p>本年度まで環境省から請負を行っていたNOP法人ふるさと南信州緑の基金への支援がなくなるので、市の財源のみとなる。地域への受入れを少しずつ増加させることが目標となる。南信州観光公社との連携も図っていく。</p>
<p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p>	<p>財源的にもエコツーリズム推進協議会自体が積極的な事業を行うことは難しいので、地域の主体的取組を支援していく。</p>

【補足事項環境側面】

<p>(1) 環境影響評価の必要性判断</p>	<p>必要性がない</p>	<p>(2) 必要性な場合の実施事由</p>
<p>(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？</p>		

【指摘事項】

<p>施策マネジメント会議</p>	
<p>施策評価会議</p>	
<p>第5次基本構想基本計画推進委員会</p>	